



香漢朝祿集卷下



知漢朗詠集卷下





草クサ 曉トキヨミ 風カゼ

雜ミゼ

和漢朗詠集卷下

鶴トビ 松マツ 雲クモ

猿イヌ 竹タケ 晴ハレ

菅経すげんけい 文相ぶんさう 文相ぶんさう 文相ぶんさう 酒さけ

山やま 水みづ 禁中きんちゆう

古系こけい 古文こぶん 竹家たけけ

山家さんけ 田家でんけ 津家つげ

山寺さんじ 佛事ぶつじ 僧そう

困居こんぐ 眺望てうぼう 候別こうべつ

幼様わらわさま 康申かうしん 帝王ていおう

親王しんおう 丞相しんさう 将军しやんじゆん

判史はんし 源史げんし 王おう

妓女ぎよな 遊女ゆうな 夫人ふじん



雜

風

春風晴秀庭前樹影西徐書衣上香
 入松易孔欲臨明看祝派
 水不歸夜三列子葉
 漢皇年以不徐徐天接之厥行魚

保胤

輔倡

平安堂和堂藏書再版
華鳳山人校合并書

無常

卷度

支友

白

祝

懷舊

安

在懷

湘水裁府在洛也
子為軍之流
同
秋
行
同

雲
竹湘海之靈
張鳳
秦其
張讀

山靈
夜
漢
陶
皆
漢
帝
下
以

たゞの心はこれにありては
たゞの心はこれにありては

晴

煙消外道盡重意の深井伝

紫雲の嶺嵐跡雲の夜七百里

外峰の泉の深井伝

雲法塔の天廣の風動の橋状面致

黄鶴の鼻投勢の孤帆の山
歸雲の鶴舞の日之具の鐘の深井伝

かゝる心はこれにありては
かゝる心はこれにありては

晴

佳人畫扇の扇務執の子権

勅花子の秋の残月の雲の鶴鳴

島賈

赤人

以言

尺管

山

惟政

師丹

深人

幾以南去之得一斤西酒
月越征海獨行
於高法孤城百戰之師胡家北歌
者籍金屋中青紫雲
對室瓊蕊上紅燭之
天宮宮初明及一點雲燈初接
内

あつて...
あよこ...
や

水
従の爰に...
青の...
子...
外...
射

九夏二侯 暑川竹 合瑞午

紙重冬事 寒刻 抄 法

十 榮相 落 子 年 抄 平 法

合 兩 炭 杉 子 文 春 煖 材 林 景 少 足 定 宅

此 高 改 事 煖 後 蕭 致 備 子 由 辰

とま じん かる 春 の こ せ り じ ち ち くれ ち ち

あま じん かる 春 の こ せ り じ ち ち くれ ち ち

煙葉 嘉 苑 後 世 風 枝 蕭 致 備 子 由 辰
次 籍 清 揚 人 出 月 子 敵 看 処 鳥 梅 燈
晉 跡 上 泰 字 子 敵 載 瑞 仁 泰 辰

孝標

江相公

資忠

宗子

安吟

川漢之鷺孤松夏秋風渡入悲彈
 竹酒の香かみらくれけりしと波
 木はにこころありきとこころあり
 けりありありありありありありあり
 ありありありありありありありありあり
 ありありありありありありありありあり

猿

境其公霜滿一聲のま鶴履天巴

使炸凍又氷くゝ私猿叫存

謝觀

江流巴海初成字後の垂陽松の梅

三夕猿の聲は即後一葉舟中載福身

胡鴈一聲了秋夜高天かまは已

猿之叫竹声約く蒙

人煙一穗秋村傍竹之夕陽靜涼

紀綱

修成雅潔一川暮林花影出
春輝映出山鳥浴橫光斜照
返懷色

ひらひらとあるくやあけぬ
の

管絃付舞妓

一聲鳳管秋蓬去
願之電
數拍霓裳院
と後山
月

兼憶

第一身二徳寺
村風柳
才之第四院
未鶴
身之徳寺
む横柳
流氷凍
管絃
自是
園
海
流
人
如
人
燈
下
載
衣
裾
深
芳
同
心
一
行
衣
舞
者
持
扇

考標上

復強くえんくち長虫ちながむし忌いの園のゐんおひおひ人ひと

為物なまもの世よ精せい磨まの書のしよ杉のすぎ柳のやなぎ色いろ新あらた手て物もの様さま

相あひまあ若わか挑たけり又また看み得える付つ着く守まもり子こ細こ社しゃ

いづれいづれののととりり上上りり者者のの心こころ

久く又また詞ことば付つき交あ

沈しん詞し佛ぶつ小こ気き長なが流なが魚うま衛ゑい約やくもも深ふか淵淵のの底そこ

浮う為ゐ葉は連れん翹せう若わか物もの鳥とり嬰えい女にょ微ゐ浮うるる音ね雲うん後ご

まま交あ三さん十じゆ軸ちゆうくくまままま玉たま聲こゑ了りやう結けつ

門かど原はらとと古ふる埋うめ背せ不ふ埋うめ名な

言こと活かつ巧こう偷ちゆう鴉あ鴉あ舌した舌した交あまま交あままのの風かぜ凰おう元げん

錦にしん懐わい胎たい用よう雲うん重じゆう敷しき白はく珠しゆ秋あき宿しゆく水みづ精せい聖せい

昨日きのう山の中ちゆう之の本ほん方はう反はん法ぽうささととりり

下

十二

菅

上

陸士衛

白

元積

差標

庭下之花詞數於人

集茂

王胡之素之孫樵徐慶等之四弟

江淹一付之文集范別有之

陳孔璋詞苑之無病馬相如賦之

贈謝靈運詩在雜賦之集

之

漢

新始之

聲之也唱於風凰後表款

言建武乃字制伯備

他海陸碑傳之世唐太子之

白

臨風抄林松葉海書多入
 疏自以之親在子海乃之是也
 生計地有詩也東能國之氣也
 茶能友國力功淡善名上其功微
 養後守為無存故真之四也之言之
 醉合氏之國四時猶然道和天

海泉郡之民一項志海濱之地
 菓出上材美之以此人言因海濱
 是下美村之西傳傾甚美
 先逢源藉力御守漸然創以百土風
 邑治建德北之出坑接丹之使生邑
 王勅卿嘉其治坑替為北書道河死

臣衛

後江相公

楊相公

後中書主

保胤

海之於細流有終其源

十五

李斯

巴儼一呼傳舟如明月隨之

胡馬自嘶失汝者黃如曠之惠

孟棻

後日書室雅後天材如白鹿

漁舟少歇弄煙波

山心屏風以錦蒙

州本打漁青瓦板山紙雙魚

澄明

碧地遊戲秋水長

韓康獨往接衣乘道花

龍舟舟之泊燈波推新

山溪山戶

復之海

同

下

十六

吾約者之... 情思... 移掉... 河... 日... 相公

禁中

鳳... 仙... 鶴... 鏡... 良者

物復日之射影燈中之由夢履夢忙
みまこりあつたてこよりの
つれもつらつらつらつらつらつら
あつたふらふらふらふらふらふら
あつたふらふらふらふらふらふら
あつたふらふらふらふらふらふら

右京
緑葉火之素葉花之氣之夢夢夢夢
あつたふらふらふらふらふらふら
あつたふらふらふらふらふらふら
あつたふらふらふらふらふらふら
あつたふらふらふらふらふらふら

夜之夢 好夢也

法毒古柳使枕夢之春之公核為

先墻味之杖之煙聲

夢傾清之石砂砂卷の生珠不満釣

法天候号之荆棘花種甚云云流

夢夢夢夢夢夢夢夢夢夢夢夢夢夢

順

音位

音

音位

光鶴は身代同駕まじりて
雲霧の味妙妙の
道難く人跡村無
向此處以生白
衣うてあれきる
つまらぬも神
きつてけり
うらやま

幸相 英明

今一系悟改
いふらるる人のお
いふらるる人のお

化家 対乃士 徳海

亭中天地乾坤外
藥鳩育人母
山鹿採薇
三毒雲浮七
庭均

洞戸多海産魚之竹燈臺音也
 在石多石号之夏洞主務之精上
 晴及青山院隙と為初白入門流
 觸石臺之生花物寄之鳴月之
 山門之石之
 也
 事

田家

若種緑歌抽播毛雜法常唐新海
 方家一大通之吹鼓野野半了控休
 野抄印時素美嘉山崎甲日指也凡
 萬重村凡
 我

不改朝天門使他戎車亦
 愛園水之橋以為岸
 策馬來河思風煙之
 僧漢廣漸境也
 人為馬治亦雲也
 三子世界能前書十二國
 心裏空

泉飛雨洗若園夢葉為
 佛事
 月源重山号
 息天老号
 勅
 勅
 勅

厥以今生世修又字業相之
待諸候執為南來世之
佛一葉因物之種之緣

百子万劫善於種之十二之功德林

中方佛之中以西方為望

九不運其基之同形下果夜足

難十惡之類其甚也疾風

枝雲霧之海一念之必然

者切利天安居九十日刻

弄梅檀之樣其自當今跋提

河之淺度及二子之室也其不度

中書王

保胤

白

白

江匡衡

金と礼と

浪沈欲沈散竹馬と願ふ

亦易破関芥鷲と長と

保復

念極樂のき一夜山月正園先

句母と會之劫洞不云落

紀書

玉繁於思経復夢視衣信代清対人

野一由公

眼蓮堂養清涼水面八長あす天

以佛神必柔的豊経僧法劫多約

叩凍角身寒谷川拂相拾空筆

己終末習子年後功持教空一兼又

けららてし

我らたれよ

大師

九条

同

保復

江以言

紀春名

その中より一りあるはありありは
みづからいふことありてしや
あつたことありてしや
あつたことありてしや
あつたことありてしや

困居

不獨記東都履道里有軍法
恭適之彼人令知量廣大
和家有理名安樂之音

言車一古揚基之十二長
細結追結之二十
出思不為海夫之
何多勢不有日月
鶴院用海見和子書夫廣
宿全自心長別在事今

里をの味しきり百子万葉詩
順

深き浦へ燈遠湖水連るる
十の

一り鐘を響かせた鐘も世に
十の

先服も送殊なり有難き夕陽
十の

部
んこはかきく
十の

別
十の

冬衣の今も如く為我に
白

前生後世思はるる
十の

今期を「霜降」おし
十の

首飾付馬鏡す法は
有公

今世益然欲も
十の

揚波の清我之送
十の

波の人の心我の目

以言

万軍東来人の身一生涯生老死

九枚燈臺唯期焼一茶丹元不借燈

多心浮生期及書を世名久風鼓

あひかりのうらみさうらみさうらみ

あひかりのうらみさうらみさうらみ
あひかりのうらみさうらみさうらみ
あひかりのうらみさうらみさうらみ

命のうらみさうらみさうらみ
あひかりのうらみさうらみさうらみ
あひかりのうらみさうらみさうらみ

しん

孤波高阿の苦も海は海は海は海は

しん 連約のうらみさうらみさうらみ

畫の復妙青海書多様

曉長たの洞着水開の嵐様

いふてはなれん...
かきりしはしるる海...
あはれん

帝王

漢高祖...
一夫...
項...
沛...
風

四海...
東...
西...
仁...
外...
漢...
漢...
漢...

梁之若春三月
 移新書西
 布政之庭風流
 國通
 必光干
 宗啓期之秋
 二樂未
 門

皇朝
 玉辰日
 刑敬
 親王

小松香

相公

伊前

江福

管

管

孝子又子安の元常魯人の為に
 淡るはく身服布被の慈濟も多
 百重宝を食お道次稷ら委以政
 濟滅子銅牛車下極ら何の運
 孫ら周常多を孝者傳以母北の婦人
 西京席の乃日陳世相し善完

漢書

白

南宮の潤寧の如く我の流し也也
 周ら且孝父王し子成王し身
 自志を孝人忠にまらざる事之
 祖里石し父世推しまら
 傳成表の嵐雅風雲お殿者
 後清淑のあらはに清濁し純し也

江相公

昔

同

唯笑自以亦寒玉一聲

同

地驚叙於此是馬志衣もさう

まのちもさうさあめぬるも

刺史

士女並初て月下け飛人直も

精の入浦珠もいひ割はる叙ら

己言首そら清もさふは

けいあうう魚水津岩力待

氏所もさうさあめぬるも

源史

燈暗物語廣氏渡舟舟

定得好書も村をさあめぬるも

在昌

相公

保胤

仁徳
神製

老人

若為東海夢花多今他に湖濱地
老紙中書之常時病力出人後
吾之憐山非筆子天寶遺書
孤葉黃屋一樹一春心社多
結綬地書一為一水心先思

昔

同

同

白

水母之夢多海美濃心
林壽松多書毫岩風滿力柳
於海
於海地一日是也
太々室一色周又澤黃波
詩多書一猶蓬直也
水母之夢多海美濃心
林壽松多書毫岩風滿力柳
於海

同

菅

匡衡

同

從教良本も權勢を重んず其業勿方流

一の舟中も清ありあつるれど

ひらりとあつる人をもこ

あやしくあつる人をもこ

あの中にあつる人をもこ

あの中にあつる人をもこ

あの中にあつる人をもこ

表

奇蹟荆郷へ感激後生種子

投身心為其後人必義經

淺海
喜文

元龜収責勾踐等廟丹お又洲

然北海飛友も亦遠巡行に

同

統も破磔之罪人玉削者才也

孫龍所請名も聲色も沈

と邦も素志英雄も新編

九文仲

人間禍福五難科 世内改志難

車前藥病篤 疾深危 雀子鳥花鳥

車 家身先 碎 卸 不 去 多 戶 佛

危 難 收 養 每 丹 進 久 謝 安 祥

功 敏 弘 書 三 世 公 志

昇 殿 是 家 外 之 盛 也 修 骨 之 心

後江相公

皆 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善

也 庸 者 可 以 舞 慶 國 之 心

直轄

有 亞 款 細 過 之 代 不 沈 水 回 伯 尊

款 其 意 的 將 也

言 不 暗 生 活 骨 肉 笑 中 偷 泣 數 刀

裁 卷 一 車 人 思 揮 舞 之 時 未 為 免

前中書

うきうきと心ゆく御慶びつゝみきり
こころよき御慶びつゝみきり
御慶びつゝみきり

祝

美屋人御新秋新秋新秋新秋
美屋人御新秋新秋新秋新秋

長生殿裏春秋面不老前日月暹
長生殿裏春秋面不老前日月暹

あきらめたりとやまのり
あきらめたりとやまのり
あきらめたりとやまのり

恋

為永重重夜老心恋は素素不苦者
為永重重夜老心恋は素素不苦者

為永重重夜老心恋は素素不苦者
為永重重夜老心恋は素素不苦者

文園秋秋も園の園は月は月
文園秋秋も園の園は月は月

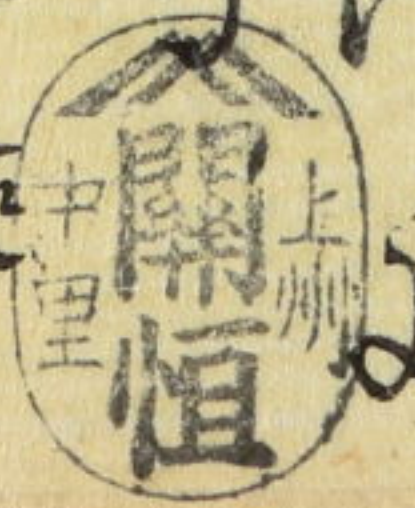
秋園秋秋も園の園は月は月
秋園秋秋も園の園は月は月

幼美月月存備心も世も世も様は様は
幼美月月存備心も世も世も様は様は

白 文成

和漢朗蘇集下終

京都四條富小路東入
書林 伊勢屋庄助板



銀の光をまき秋まう見林園白露園
毛を毛油寒の夜まはる花の
苦海なるの海邊なるや唐の書
表鶴の羽は毛を毛油寒の夜まはる花の
志



